

カルデラ火山一覧

カルデラ火山は、その活動周期が1万年よりはるかに長く、1万年以内の火山活動履歴の有無で判断するのは適切ではない。以下は、直径10km以上の、あるいは過去十数万年以内の大規模な（火山爆発指数（VEI）が6以上の）噴火によって形成されたカルデラのリストである。

カルデラ名	主な後カルデラ火山名	最新のカルデラ噴火年代	噴出物名称（記号）	文献
摩周（Mashu）	カムイヌプリ、カムイッシュ島	7.6 ka*	摩周f（Ma-f）	1, 5
屈斜路（Kutcharo）	アトサヌプリ、中島	40 ka*	クッチャロ1（Kp I）	1, 2
阿寒（Akan）	雌阿寒岳、雄阿寒岳	120←→210 ka	阿寒1（Ak1）	2
支笏（Shikotsu）	恵庭岳、樽前山	40←→45 ka*	支笏第1（Spf1, Spfa-1）	3, 6
倶多楽（Kuttara）	日和山	>43 ka	クッタラ第1（Kt-1）	3, 7
洞爺（Toya）	有珠山、中島	112←→115 ka	洞爺（Toya）	3, 8
十和田（Towada）	御倉山、御門石、五色岩	15 ka*	十和田八戸（To-H）	3, 9
箱根（Hakone）	神山、駒ヶ岳、二子山	60←→65 ka	箱根東京（Hk-T）	3, 10
阿蘇（Aso）	中岳、高岳	85←→90 ka	阿蘇4（Aso-4）	3, 11
始良（Aira）	桜島、若尊	29 ka*	始良Tn（AT）	4, 12
阿多北部（Ata）	（開聞岳、池田・山川）※	105←→110 ka	阿多（Ata）	3, 13, 15, 16, 17
鬼界（Kikai）	硫黄岳、稲村岳、昭和硫黄島	7.3 ka*	鬼界アカホヤ（K-Ah）	3, 14

表中の「ka」は「1000年前」を意味するが、暦年較正した14C年代値は「ka*」と表記した。

A←→B：A年からB年までの間のどこかで起こった噴火イベント

「>A：A年以前に起こった噴火イベント

（※）阿多火砕流を噴出した位置には後カルデラ丘は確認されていない。ここでは近傍の阿多火砕流噴出以降の活火山を示す。

文献番号	年代
1	山元孝広・伊藤順一・中川光弘・長谷川健・岸本博志 (2010) 北海道東部, 屈斜路・摩周カルデラ噴出物の放射炭素年代値. 地質調査研究報告, 61, 161-170.
1	山元孝広・伊藤順一・中川光弘・長谷川健・岸本博志 (2010) 北海道東部, 屈斜路・摩周カルデラ噴出物の放射炭素年代値. 地質調査研究報告, 61, 161-170.
2	長谷川健・中川光弘・岸本博志 (2012) 北海道東部カルデラ火山群の大規模火砕噴火史. 月刊地球, 33, 726-734.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.
4	奥野 充 (2002) 南九州に分布する最近約3万年間のテフラの年代学的研究. 第四紀研究, 41, 225-236.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.
3	町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 337p.

文献番号	形成論
5	岸本博志・長谷川健・中川光弘・和田恵治 (2009) 最近約1万4千年間の摩周火山のテフラ層序と噴火様式. 火山, 54, 15-37.
2	長谷川健・中川光弘・岸本博志 (2012) 北海道東部カルデラ火山群の大規模火砕噴火史. 月刊地球, 33, 726-734.
2	長谷川健・中川光弘・岸本博志 (2012) 北海道東部カルデラ火山群の大規模火砕噴火史. 月刊地球, 33, 726-734.
6	山縣耕太郎 (1994) 支笏およびクッタラ火山のテフロクロノロジー. 地学雑誌, 103, 268-285.
7	森泉美穂子 (1998) クッタラ火山群の火山発達史. 火山, 43, 95-111.
8	町田 洋・新井房夫・宮内崇裕・奥村晃史 (1987) 北日本を広くおお洞爺火山灰, 第四紀研究, 26, 129-145.
9	Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bull. Earthq. Res. Inst., 60, 507-592.
10	長井 雅史・高橋 正樹 (2008) 箱根火山の地質と形成史. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), 13, 25-42.
11	小野晃司・松本征夫・宮久三千年・寺岡昌司・神戸信和 (1977) 竹田地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 地質調査所, 137p.
12	長岡信治・奥野 充・新井房夫 (2001) 10万?3万年間の始良カルデラ火山のテフラ層序と噴火史. 地質学雑誌, 107, 432-450.
13	Nagaoka, S. (1988) Late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rep. Tokyo. Metropolitan Univ., 23, 49-122.
14	小野晃司・曾屋龍典・細野武男 (1982) 薩摩硫黄島地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 地質調査所, 80p.
15	川辺禎久・阪口圭一 (2005) 開聞岳地域の地質. 産業技術総合研究所.
16	川辺禎久・阪口圭一・斎藤 眞・駒澤正夫・山崎俊嗣 (2004) 20万分の1地質図幅「開聞岳及び黒島の一部」. 産業技術総合研究所.
17	町田 洋・森脇 広 (2001) 鹿児島地溝の火山群 (町田ほか編), 日本の地形7 (九州・南西諸島), 東京大学出版会.

カルデラ火山の分布図

